

上田市教育委員会 10月定例会会議録

1 日時

平成30年10月17日(水) 午後2時58分から午後16時30分まで

2 場所

上田駅前ビルパレオ5階 上田市教育委員会 第一会議室

3 出席者

委員

教育長	峯村 秀則
教育長職務代理者	北沢 秀雄
委員	平田 利江子
委員	横関 妙子
委員	綿谷 憲一

説明員

中村教育次長、池田教育参事、石井教育総務課長、高木学校教育課長、小林生涯学習・文化財課長、唐澤人権同和教育政策幹、池田スポーツ推進課長、青木丸子地域教育事務所長、宮崎真田地域教育事務所長、宮越武石地域教育事務所長、武捨第二学校給食センター所長、竜野中央公民館長、上原川西公民館長、飯島上田情報ライブラリー館長

1 あいさつ

教育委員の皆様には大変ご苦勞いただいた学校訪問について、10月11日に六中、北小の訪問をもって本年度すべて終えることができた。委員の皆様方には、さまざまな視点から学校の良さや改善点をご指導いただき大変参考になった。学校は、教育施策においては、学校教育課に限らず教育委員会の各課、各部署各施設に関連しているので、今後いろいろなご意見等、お聞かせいただきたいと思う。

2 協議事項

(1)平成30年度各課の重点目標の中間報告について(石井教育総務課長より説明)

重点目標の中間報告として、各担当課から説明する。重点目標について簡単に説明させていただく。上田市では取り組むべき目標を明確化するとともに、効率的な行政運営を図る意味で目標管理制度を導入している。毎年部局ごとに重点目標を設定して取り組み、目標の設定は年度当初に設定している。また部局内で調整して優先順位が高いものから5つ程度選択して目標を設定している。この重点目標について9月の終了時点で中間報告すること、3月の期末を行うこととされており、目標に対する進捗状況や年度末の達成状況等の確認を行いながら、その結果について市民への説明責任を果たすこと、広報やホームページに掲載して市民の皆様にご

表することとなっている。今回、教育委員会で設定した5つの重点目標の進捗状況について中間報告の説明をさせていただく。

重点目標「上田市教育支援プラン」の推進（教育総務課・学校教育課）

資料1により高木学校教育課長説明（要旨）

学力の定着・向上について、(1)生活・学習ノート「紡ぐ」を有効活用するための検証と次年度への準備について、数値目標は、学力向上委員会小委員会にて利用方法、ノートの使用等の見直しを行うこと。計画を立てて家庭学習を行う児童生徒の割合を平成29年度と比較し、各々3%増加を目指すことである。中間報告の検証について、小学校7校、中学校3校を抽出し、アンケート調査を4月に行った。今後、同じ学校で調査を実施し、結果を検証していく。また、学力向上委員会小委員会を1回開催（全3回）している。次に「計画を立てて家庭学習を行う児童生徒の割合」だが、小学生が前年度に比べ、4.3%増加しているが、中学生は前年度に比べ、3.2%減少となった。続いて(2)特別支援学級のタブレットパソコンを使用した授業の推進については、数値目標を、教職員の研修をしない6地区に分けて1回ずつ開催することであるが、10月から開催する取組を行っている。第1回目は10月2日、第2回目は10月16日に実施している状況である。

英語教科への対応とコミュニケーション能力の充実について、(1)小学校教員の指導力向上について、数値目標は、英語教科化推進委員会による授業研究、公開授業の開催、小学校教員を対象として、研修等の開催を通じて指導力の向上を図ることである。これに対し中間報告は、小学校英語教科化推進委員会による授業研究を2回開催し、11月以降、公開授業を9回開催する予定である。また、夏期研修会を8月に小学校教員40名ほどの参加で開催した。(2)英語指導助手（ALT）の小学校定期配置の取組については、数値目標はALTが毎週定期的に小学校へ配置されることを目指すことである。中間報告は、小学校専属英語指導助手（ALT）を6名配置し、訪問計画を学校教育課で作成して毎週定期的な小学校巡回を実施している。

教員の働き方改革の推進について、(1)部活動指導員制度の導入の取組について、数値目標は部活動指導員を3名配置することである。中間報告は、6月補正予算で部活動指導員の賃金を予算要求し、7月から部活動指導員3名を配置している。この3名については丸子北小のテニス部、一中、塩田中の合唱部である。(2)タイムカードなどを用い教員の勤務時間の把握と適正化について、数値目標は、導入機器の選定を進め2学期から使用できるようにする。12月の時間外勤務の平均時間が、平成29年度（51時間58分）と比較して1時間縮減を目指すことである。中間報告は、勤務時間を管理するPCソフトが現在16校に整備済みである。今後、全校で実際に使用していくことになるので勤務時間の把握に努めていただきたい。

放課後児童対策の充実について、(1)放課後児童支援員等の処遇改善の継続の取組、この数値目標は総支給処遇改善額の増である。中間報告は、実際に処遇改善額を増やすため、12月の変更契約締結に向け、指定管理者ごとに処遇改善額を決定するための職員名簿を提出させた。(2)適正な利用児童数を維持するための施設整備の取組について、数値目標は、放課後児童クラブの施設を2つ増やすこと、また、施設移転による定員増を図ることである。中間報告は、放課後児童クラブの分室を4月から2つ増やし、定員が60名増となった。また、1施設を移転させたことで、定員が10名増となった。

資料 1 により石井教育総務課長より説明（要旨）

食育の推進・充実に向けた環境の整備について、(1)新しい学校施設に係る建設用地の検討・選定、(2)「今後の学校給食運営方針」を踏まえた新しい学校給食施設に係る整備計画の作成の目標である。中間報告は、建設用地についてインフラ関係の調査を進め、いくつか候補地として挙げているが、候補地の上下水道、都市ガス等の整備状況や処理能力の確認、今後そのエリアに整備をする見通しがあるのか、インフラ整備について関係課、関係機関に確認をしながら進めている状況である。(2)の整備方針だが、市長から再検討の依頼を受けたことで教育委員会の中で検討を進め、市内の学校給食センター、長野市第四学校給食センターへの視察の実施など、これまで取組を行った状況を中間報告とさせていただく。

小中学校のあり方の検討について、取組の目標については、(1)(2)有識者による検討委員会を設置してあり方に関する基本方針の検討を進めているところである。検討期間は2年間、これに対する中間報告は、若干スケジュールが遅れており、現在、委員の人選を行っているところである。(2)として、委員の人選が決定次第、検討委員会を設置し、基本方針の検討に着手する予定である。

○峯村教育長

上田市教育支援プランの推進について中間報告をいただいた。ご意見等お願いしたい。

質疑

北沢委員

の食育の推進・充実に向けた環境の整備について、建設用地の選定等、ぜひ今年度中に結論を出していただきたい。用地選定についても、平成27年にいくつかの候補地が挙がっていたはずである。市の用地も含めてそれに対しての評価が出ているので、まったくゼロから始めることではないので、今年度中に候補地を選出してほしい。

また、の学力の定着・向上について、「紡ぐ」のノートを使って3%増加した「計画を立てて家庭学習を行う児童生徒の割合」を評価することはいいと思う。小学生は予想通りだが、中学生は減っている。減っている理由をきちんと検証してもらいたい。抽出校が3校なので、上田市の中学校全てを見るのは難しいが、本来なら3%増を目指しているのに3%減となっていることは問題だと思う。「紡ぐ」のノートは何を目的に使うのかというと、学力の定着・向上である。これは「紡ぐ」を使うのか使わないかということが第1で、家庭学習が増えたか増えないかということが第2である。その結果、学力の向上・定着につながったかと検証するのが最終目標で行うことである。NRTや全国学力状況調査結果の数値で見るしかない。その数値が全ての学力をあらわしているとは思っていないが、教育行政的にはその数値も大事に考えたい。

その他、小学校のALTの派遣については、現場の一部の先生から円滑に運用できていないと声があがっている。それについても期末の報告でお聞きしたい。

峯村教育長

中学生の3.2%減については、検証し何か把握しているのか。

高木学校教育課長

特に話が上がっていない。

峯村教育長

A L Tの派遣はどうなのか。

高木学校教育課長

実際のところ1名派遣できなくなったことがあり、ハローワークに募集をかけている。できるだけ代わりになる方を見つけてお願いしたいと思っている。

横関委員

「紡ぐ」について小学校が7校、中学校が3校を選んだ理由はどのような根拠があるのか。

高木学校教育課長

この抽出で選んでいると思う。

横関委員

学校を訪問する中で、学校あるいは地域によって「紡ぐ」の使い方はさまざまである。成果が見られる学校は先生が課題を上手く子どもたちに出して家庭学習に繋げて成果が出ているようである。どのようにやったら家庭学習の成果が出るのか良い部分を共有していただくことが大事であると思う。課題の内容や学力が向上された小中学校の例を調べていただくことも良いかと思う。それぞれ活用の仕方が重要である。A L Tの件であるが、学校をかけもちしていることで先生方と十分話ができないことも課題としていただきたい。また夏期研修会の参加者が40名とあるが、2回目ではほぼ全員が参加することになるのか。

高木学校教育課長

全体を集めての研修会については、夏期研修会1度だけだと思う。数字だけで見ると少ないと思うが、今後、公開授業のときに小中学校の先生に来ていただき、その場でも研究できるよう有効活用していただきたい。

横関委員

研修会に参加できない先生もいらっしゃると思うので、2回ぐらいにさせていただき、皆さんが参加できるような環境も整えていただきたい。

平田委員

の教員の働き方改革について、部活動指導員3名を配置して3か月が経つ。実際にどのように教員の負担軽減になっているのか、また今後働き方改革に繋がる検証をどのような形で行っていくのかお伺いしたい。教員の勤務時間の管理については、先日PCソフトを拝見させていただき時間の把握が管理しやすくなる感じた。学校によっては校長先生が率先して早く帰

るよう時間外勤務の削減に努力されている話を聞いているが、今後勤務時間を把握したうえで、適正化に向けて何か具体的な取組をしていくのかお伺いしたい。

高木学校教育課長

部活動指導員については、数字的にどのくらい軽減されているかは分からない。タイムカードについては月ごとの数値が出てくるので、校長先生が率先して定時の時間に帰るなどしていただくと良いと思う。教育委員会としても全部の学校は回りきれないので、校長会等で取組を進めるよう指導していきたいと思う。

平田委員

『「紡ぐ」の活用と学力向上』と同じことで、時間を管理したから達成度が上がるということではないと思うが、検証を行い各学校での良い事例などを踏まえ具体的な取組を積極的に進めていくことができればと思う。

綿谷委員

の中学生3.2%減の結果に、中間目標から今後の対策指示は出されているのか。

高木学校教育課長

具体的な対策案はないので、学力向上委員会小委員会の中で効果的な取組をあげているところがあれば、その取組を参考に広めていきたいと思う。

峯村教育長

池田参事、今の取組で何かないだろうか。

池田参事

中学生については、部活動時間外で学校も知らない段階で行っている状況が一部の保護者から情報が入った。当面学校への指導はもちろんだが、先日の校長会でその情報をお伝えしたところである。具体的には、本来の部活動外の夜9時頃までやっている。朝の練習も黙認されたような形でやっている。中学生の部活の負担が一部に影響していると考えられることは確かだと捉えている。

全員了承

重点目標「安全・安心な教育環境の整備」（教育総務課）

資料1により石井教育総務課長より説明（要旨）

(1)学校施設カルテに基づく個別施設長寿命化計画（素案）の作成の取組について、数値目標は計画となる施設の過去5年間の実質把握と、特殊建築物等定期点検結果等による施設の状態の把握である。長寿命化計画については、文部科学省から平成32年度までに策定するよう努めることとされている。教育委員会として平成30年度は、基礎資料をまとめる年である。来

年度については、外観等を確認しながら実際に現地を見て確認すること、平成32年度は実際の時期を計画して策定するスケジュールを考えている。中間報告については、1つ目に過去の営繕工事の実績について施設カルテに記入を行った。施設カルテは、昨年、学校の棟ごとに建築年度や構造、面積といった評価の基礎情報のほか、耐震化の状況や改修履歴をまとめたもので、現在整備している状況である。その他、特殊建築物等定期点検というのは、3年に1回法で定められた施設の老朽度やこれに適合しているかの検査を行う調査である。本年度は11校が対象となっており、既に発注済みではあるが、2～3校を残して結果の報告が随時来ている状況である。それを把握しながらまとめていくことと、来年度に向けた老朽度調査について、どうやって進めていくのか検討している。(2)の取組みは学校間の機能面での不均衡解消のため、学校施設建設に係る標準モデルの検討で、学校ごとに設備や外観の違いがあることをできるだけ少なくする意味で標準となるモデルを検討しまとめていく。数値目標については標準モデル作成のため条件整理をしていく状況である。中間報告は、今後の学校施設の改築における標準モデルとなるよう、施設の配置、構造、材質等について継続的に関係課と協議を重ね、概ねの方向性を確認している。基本的には、建築後の維持管理がしやすいことが一番大事かと思う。シンプルで汎用性のあるものが基本になるであろうということで検討を進めている。

峯村教育長

安全・安心な教育環境の整備について質疑をお願いしたい。

質疑

横関委員

公共施設カルテをWeb上で公表している自治体もあるが、上田市として施設カルテを公表していく予定はあるのか。

石井教育総務課長

現在まとめている段階なので、他市がどのような形で公表しているのか確認していない。他市の状況等を調べながら、どこまで公表できるのかも含めて検討させていただきたい。

横関委員

「見える化」をしてもらうことは、市民にとっても良いことだと思う。今後の公共施設を建てるためにも施設カルテは重要になってくるかと思う。ぜひ公表してもらえるとありがたい。その他、中学校の改築について、学校で生活している生徒がどのようなところに困っているのか、どうなってほしいのかという思いがあると思う。先生方にとっても教育しやすい校舎なのか、思いはあると思うので、そのところをぜひ汲み上げていただきたい。学校は地域、保護者のものでもあるので、その方たちの意見も取り入れて建てていただきたい。

石井教育総務課長

検討したいと思う。

北沢委員

「標準モデル」という言葉が非常に気になった。上田市の学校は全て同じ校舎配置で、屋根や壁の材質も同一の標準モデルとして、本当にそれでよいのか。敷地の面積も違うし、斜面や平地の敷地もあり、学校規模もそれぞれ違う。そのような中で、標準モデルとはどのようなイメージなのか。つくる側にとっては楽だと思うが、検討してほしい。第一中学校と第二中学校がどうしてこんなに違うのかなど、そのような評価がないように標準モデルをつくっていくという方向もあると思うが、学校規模、敷地の形状等を考え、学校独自の歴史や地域住民、保護者の要望をどのように入れていくのか。標準モデルについて考える余地はあると思う。

峯村教育長

今の2点については検討ということによろしいか。

北沢委員

よろしい。

全員了承

重点目標「文化遺産の保護・継承・活用」（生涯学習・文化財課）

資料1により小林生涯学習・文化財課長より説明（要旨）

「上田市歴史文化基本構想」の策定と「日本遺産」への認定申請について、(1)数値目標は「上田市歴史文化基本構想策定委員会」を開催するとともに、12月までに構想を策定することで、中間報告は「上田市歴史文化基本構想策定委員会」を1回開催するとともに、6月には文化庁の指導を1回受けたところである。また、(2)文化財の悉皆調査の実施について、現在も悉皆調査を進めており、古民家調査は約95%、仏像調査は約90%、12月までには終了する予定である。(3)「日本遺産」の認定申請の提出については、中間報告として日本遺産庁内検討会議を組織して会議を3回開催した。また、文化庁へも出向き、「日本遺産」申請について相談とご指導をいただいた。現在は12月に歴史文化基本構想を策定し、それに向けて検討会議で検討していく状況である。

史跡等整備の推進と文化財の保護と活用について、(1)文化財調査と指定は、数値目標が、「文化財保護審議会」の開催と指定候補文化財の調査及び指定で、「文化財保護審議会」を1回、9月27日に開催した。(2)史跡整備の推進の数値目標は、「史跡上田城跡整備実施計画検討委員会」の開催、発掘調査(二の丸土塁)を数値目標に掲げ、上田城跡の発掘調査については2月、3月の予定で準備を進めている。また、信濃国分寺跡は1件の公有化については協議中で、今年度中に公有化を終了する予定である。(3)埋蔵文化財の保護についての数値目標は、開発事業に伴う事前調査、上田城三の丸大手堀跡発掘調査報告書の作成であり、中間報告として開発事業に伴う調査を随時実施し、上田城三の丸の発掘調査報告書を現在50%作成中である。(4)文化財の保存・活用について、数値目標は旧倉沢家住宅文庫蔵の保存修理、指定文化財保存修理事業及び無形民俗文化財等後継者育成事業への補助、文化財 de 文化祭事業の実施である。指定文化財保護事業は旧千曲会館・塩野神社について補助金を交付した。また、無形民俗文化

財等後継者育成事業に対して補助金の交付を決定したところである。文化財 de 文化祭は、第 1 回を 9 月 8 日に常楽寺本堂にて尺八とピアノのコンサートを開催し、約 1 0 0 人の参加者があった。

郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出について、(1)郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績をテーマとした展覧会及び講座等の開催の取組で、数値目標はそれぞれの展覧会の開催を 7 回以上、体験教室・講座等の開催を 5 0 回以上と目標に掲げている。中間報告は、市立博物館で企画展を 2 回開催し、講座等は 7 回開催した。また、信濃国分寺資料館では企画展の開催を 2 回、講座等は 1 5 回開催している。

質疑

横関委員

郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出について、ぜひ子どもたちに行っていたideたく、子どもは無料とする期間はないのか。

松崎市立博物館係長

市内の小中学生・高校生については無料にさせていただいている。

横関委員

ぜひ、学校にも広報していただくとありがたい。

平田委員

(4)文化財の保存・活用の数値目標にある無形民俗文化財等後継者育成事業は、以前から交付していると思うが、実際に交付した後どのように使われているのか。

小林生涯学習・文化財課長

1 6 団体への補助金の交付を行っている。

平田委員

無形民俗文化財を後世へ伝えていくことは大切な事業だと思う。平成 2 1 年から施行されていると思うが。

小林生涯学習・文化財課長

毎回 3 万円を交付しているので報告書があり、各所でお祭りを行ったり、後継者育成のためのイベント等の報告を受けている。

平田委員

1 6 団体で話し合ったりする場はあるのか。

小林生涯学習・文化財課長

実際には把握していないが、個々に祭り等を絶やさないことで子どもたちが関わられるようなイベントを行っている。

平田委員

地域によっては継続が難しいという話も聞く。現状を把握しより効果的な事業になるよう期待している。

全員了承

重点目標「生涯学習の推進と学習環境の整備」（生涯学習・文化財課）

資料1により小林生涯学習・文化財課長より説明（要旨）

地域と連携した学校を支援する取組の充実について、(1)地域が学校を支援する仕組み（信州型コミュニティスクール）の周知、広報を行う数値目標は周知チラシ等を配布し、ホームページを整備する。中間報告は、昨年新たにボランティアになった方に学校支援ボランティアハンドブックを配布した。ホームページについては現在検討中である。(2)統括コーディネーターを核としたコーディネーター・ボランティアの育成、ネットワーク作りについて、数値目標は、コーディネーター用のマニュアルの作成、研修会・情報交換会等を開催することで、中間報告は、学校支援プロジェクト会議（学校教育課、生涯学習・文化財課、公民館で組織）を4回開催し、その中でマニュアル部会、研修部会を設け、それぞれに検討しているところである。

資料1により唐澤人権同和教育政策幹説明（要旨）

人権同和教育・啓発の推進について、(1)上田市人権施策基本方針に基づく人権同和教育の推進については、進めているため特に中間報告には掲載していない。(2)人権同和教育に関する講演会・研修会等の事業実施について、人権啓発推進委員会、人権教育連絡会等の活動について事業を充実する形で2,700人の参加者を目標とし、中間報告は各種団体の研修に、「市民のつどい」を含め、1,848人が参加し、今後、「人権啓発担当者研修会」「人権展」等の準備を進めていく予定である。

資料1により小林生涯学習・文化財課長より説明（要旨）

青少年の健やかな成長を支援する取組の充実について、(1)生きる力を育む体験活動、集団遊び・集団生活の機会の提供について、数値目標は、野外体験モデル事業の実施、体験活動補助金の交付である。上田市子ども会育成連絡協議会で行っている7月に予定していた川遊びは、河川増水のため中止となった。中間報告として夏のふるさとキャンプでは、小学生34人、中高生13名が野外体験活動に参加し、66育成会に体験活動補助金を交付した。(2)社会変化に対応した健全育成を支える環境づくりとして、インターネット・スマホ適正利用啓発、また、補導委員会組織強化の検討について目標を掲げ、4月に市内の小学生（保護者）、公民館にチラシを配布した。補導委員会の組織見直しについては自治会との協議を経て、教育委員会で変更案を決定し、進めているところである。

公民館事業の充実について、(1)人生100年時代に向けた高齢者の学びの拡充を図るため、各公民館の高齢者大学事業検討会議を4回、公民館間の情報共有のための館長会を6回行った。(2)公民館事業の充実・共通事業の実施は、館長会6回・主事会6回を行い、各館での特徴的な取組等の情報共有を図った。今後、共通事業について検討を行う予定である。(3)社会教育機関連携「上田自由大学運動百周年記念事業」は、6回の館長会を通して事業に対する情報共有を図り、11月9日に行う青少年育成市民のつどいにあわせて、山本鼎関連のパネル展を行うことで現在準備中である。

図書館事業サービスについて、(1)図書館の機能強化として、数値目標は、上田図書館の中央図書館化と各地域図書館の役割及び運営方針・選書基準等を検討することである。中間報告は、第二次上田市図書館基本構想を踏まえ、館長・次長会議を開催し検討中である。(2)職員の資質向上の数値目標は、各種研修会への参加とマニュアル作成によるサービスの標準化に努めることで、中間報告は、県立図書館主催等の研修会へ参加し、参加者は研修結果を職員全員へ報告発表をしている。(3)貴重資料等の整理については、未整理資料の目録作成と資料登録及び情報発信による資料の活用を図る数値目標である。中間報告は、各館ごと計画に沿って資料について整備中である。

質疑

綿谷委員

地域と連携した学校を支援する取組の充実について、数値目標にあるホームページを整備するとはどういうものなのか。

小林生涯学習・文化財課長

現在検討中であるが、ホームページにチラシの記載を各地域で行っている取組などの事例を載せていきたいと思っている。

綿谷委員

ホームページは自分たちで操作して作れるものなのか。

小林生涯学習・文化財課長

ホームページを作ることはできる。

綿谷委員

地域の人たちに周知することが大事であり、他の地域にも上田をPRすること、上田市の教育の現状をPRして、上田地域の良さをアピールできればいいと思う。期末報告にはぜひ良い報告をお聞かせいただきたい。

峯村教育長

では、要望としてお願いしたい。

平田委員

人権同和教育・啓発の推進の(1)の中間報告について、記載していただきたいと思う。市民への説明責任を果たす、ホームページに掲載し公表する報告である。公民館事業の充実で、館長会の開催についてお聞かせ願いたい。

竜野中央公民館長

館長会は以前から行っている。その都度、時期的な話題を協議している。

平田委員

公民館ごとに様々な工夫をされた取組があり、公民館だよりも充実していると感じる。今後も地域の活動拠点、学びの場として連携を図りながら時代に対応した取組など引き続きお願いしたい。

北沢委員

(1)で子ども育成会連絡協議会と公民館、学校との関係を教えていただきたい。

小林生涯学習・文化財課長

育成会は各自治体にあり、そこからでてきた連絡協議会が上田市に173ある。この連絡協議会は地区ごとの代表が集まった会議となっている。例えば、育成会連絡協議会ではモデル事業等を行い、支援する形で行っている。その育成会の中で野外活動が3回、補助金の交付等を行っている。公民館とのかかわりは各地区で公民館、育成会が一緒になっているいろいろな活動をしていると思う。

北沢委員

全ての地区が行っているのか。

小林生涯学習・文化財課長

全ての自治会の分館ごとである。それぞれの育成会は各地域の中での活動となっている。生涯学習・文化財課が事務局となっているのが、その中の代表の連絡協議会を組織しモデル事業として行っている。

北沢委員

の上田図書館の中央図書館化について、教育委員会が所管しているハコモノの中に給食センター、学校、図書館といろいろあって難しいと思うが、進めてもらいたいのが希望である。

横関委員

人権同和教育・啓発の推進について、(1)中間報告がなくて残念に思う。ここにまず戦略として、結婚、子育てしたいところとあると思う。住みたいまち、思やりに溢れたまちをデザインしていくというのが生涯学習では一番大事なことだと思う。このすべてに人権の問題が関わってくると思う。もう少し具体的にどんなことをどう進めているのかを示していただきたい。

生徒と先生との間にも人権がある、人権を尊重した関係がある。子どもは子ども同士の人権があると思う。どのように人権感覚を学んで地域に根差していくのかは、やはり人権教育に一番重点が置かれるのではないかと思う。講演会を聞いただけでは分からないので、具体的に活動して行ってほしい。

唐澤人権同和教育政策幹

現在、地域においては自治会懇談会と公民館、学校においては主任会を開催し、各学校と情報交換していただいている。また、先ほどの人権啓発推進委員会という形で市民のつどい、研修会を開催している。また、企業の方々を集めて新人研修等を行ったりしている。

全員了承

重点目標「生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備」（スポーツ推進課）

資料1により池田スポーツ推進課長より説明（要旨）

スポーツ施設の整備について、(1) スポーツ施設整備計画の策定の取組は、数値目標として、今年度7月までにスポーツ推進審議会からの答申を基に計画を策定する。中間報告は、教育委員会の協議を経て、5月に上田スポーツ施設整備計画を策定した。併せて、6月市議会定例会全員協議会において説明を行った。(2) 同計画に基づく具体的な施設整備等の検討については、それぞれの施設整備計画を基に進める方針である。中間報告として、整備計画の中で今後10年間に整備する施設について、庁内関係課との協議を行い、長野県の担当課の意見も踏まえ、補助金や起債の活用について検討を行った。また、実施計画においても、平成31年度実施計画登載に向け要望を上げているところである。

生涯スポーツの振興と競技力の向上について、(1) 魅力あるスポーツイベントづくりとスポーツに触れる機会の充実の数値目標は、各種スポーツ事業を20回、「夢の教室」事業10校、姉妹都市交流事業2回である。中間報告は、各種スポーツ事業として陸上カーニバル、水泳記録会、各種スポーツ教室等12回、「夢の教室」事業を南小学校1校で開催した。また、姉妹都市交流事業としては、野球大会、日中友好中学生卓球大会2回を実施した。(2) 総合型地域スポーツクラブの育成促進の取組は、数値目標として、市内総合型地域スポーツクラブによる連携事業を2回行う。中間報告は、市内総合型地域スポーツクラブによる連携事業を6回、「あたま・からだ健康フェア」を1回、モールウォーキングを5回実施した。今後、11月23日には講演会を開催する予定となっている。(3) 競技力の向上の取組について、数値目標は、全国大会等出場支援を30件行う。中間報告は、競技力の向上に全国大会等出場者支援を19回、インターハイ、全国リトルリーグ大会等行った。

スポーツにかかわる人材育成とスポーツをささえる地域づくり(ラグビー競技者普及啓発)について、(1) ラグビー体験事業指導者の育成の取組として、スポーツ指導者へのラグビー競技(タグラグビー・タッチラグビー含む)の指導講習を2回実施する目標である。中間報告は、スポーツ指導者への講習を1回、塩尻小学校教員へのタグラグビー指導講習を行った。(2) ラグビー体験事業の実施の取組について、児童・生徒を中心としたラグビー(タグ・タッチラグビー含む)体験指導を5回行う目標である。中間報告は、児童・生徒を中心としたタグラグビー体験

事業を11回開催した。これは県から派遣を受けているスポーツ指導主事が出向き、学校の授業の中で行う事業である。傍陽小学校児童ヘタグラグビー体験事業7回、上田西高校生への体験事業3回、真田地域教育事務所主催で一般対象のタッチラグビー体験事業1回を実施した。

質疑

北沢委員

の中間報告(2)ポールウォーキングは聞いたことがあるが、モールウォーキングとは何か。

池田スポーツ推進課長

ウォーキングの一種でショッピングモールの中で歩くことである。

平田委員

モールウォーキングの参加者は何人ぐらいになるのか。

池田スポーツ推進課長

人数を把握していないので調べて後ほどお伝えしたい。以前からスポーツクラブの一部が協力して開催してきたところ、今年度から協議会全体で行うことになり進めている。

平田委員

非常に面白い取組なので広めてほしいと思う。

峯村教育長

5つの重点目標について説明いただいた。各部局の自己評価は最後のページに記載している。

石井教育総務課長

それぞれ自己評価を中間報告として記載し、1ページ目は全て〇、最後のスポーツ推進課の自己評価が の理由は。(池田スポーツ推進課長へ)

池田スポーツ推進課長

私どもだけ の評価を記載しているが、整備計画について7月の目標にしていたことを若干早めに計画が策定できたこと、またそれぞれスポーツの振興教育の向上等についてはご覧のとおり良い評価であること、 のラグビーの普及については今年の当初目標を上回る体験事業の実施ができて過大評価も含まれるが、記載させていただいた。

峯村教育長

それでは協議事項を終わらせていただく。報告事項だが、委員の皆さまには事前にお送りした資料について何かあればお願いしたい。

平田委員

「上田市教育支援プラン」の推進について、評価は総合的に見れば ののか? 「未進捗の部

分あり」は評価基準 である。給食センター整備方針の再検討、エアコン設備など、さまざまな課題がある中で考慮される点もあるとは思いますが、例えば「計画を立てて家庭学習を行う児童生徒の割合」で中学生が3.2%減、また8月を目途に予定していた「小中学校のあり方検討委員会」が設置できていない点などはどう評価されたのか、目標の「見える化」という点からもお伺いしたい。

石井教育総務課長

個々の取組項目の評価ではご指摘のとおりかもしれないが、トータルで見えていただければありがたい。

平田委員

進捗が遅れている事業は速やかに進めていただきたい。

全委員 了承

峯村教育長

それでは協議事項を終わらせていただく。報告事項だが、委員の皆さまには事前にお送りした資料について何かあればお願いしたい。

3 報告事項

(1) 依水館築100周年記念見学会(丸子地域教育事務所)
資料2(説明なし)

(2) 寄付の状況(学校教育課)
資料3(説明なし)

(3) 行事共催等申請状況について
(教育総務課、学校教育課、生涯学習・文化財課、スポーツ推進課)
資料4-1 4-2 4-3 4-4(説明なし)

全委員 了承

(4) スポーツ関係市長表敬訪問について(スポーツ推進課)
資料5(説明なし)

全委員 了承

(5) 公民館だより(各公民館)
資料6(説明なし)

全委員 了承

(6) 企画展「白雄と旅」(市立博物館)

資料7(説明なし)

全委員 了承

峯村教育長

それでは「4 その他」に入りたいと思う。毎回交代で出席している学校給食センター、公民館、図書館、博物館などの所属については、今回から毎回当番で自身の所属で取組んでいる事業についての紹介、または課題等について報告させていただきたい。今回は川西公民館館長から川西公民館の取組についてご説明願いたい。

4 その他

(1) 平成30年度 公民館活動の基本的な考え方(川西公民館)

上原川西公民館長より説明(要旨)

1. 川西公民館の主な事業についてご説明させていただく。川西公民館は「ふるさとの心を結ぶ公民館」になることを願い、すべての事業を企画し推進して公民館職員、分館役員、地域の皆様とともに活動を取組んでいる。

2. 川西公民館事業の7つを柱として講座や事業を行っている。事業について特徴的なのは、(1)「子どもたちが元気に輝くふるさと川西づくり」にある「ア 通学合宿」は、4つの公民館において取組んでいる。1月5日から8日までの3泊4日、川西小学校、浦里小学校を対象に子どもたち29人の参加で実施した。今回16回目を迎える通学合宿は子どもたちの体験活動であるとともに子どもたちを中心とした地域づくりの一環として今後も続けていきたいと事業として考えている。

(2)「文化の香り高いふるさと川西づくり」、資料6記載の「ア 川西公民館まつり」は今月の27日から28日までの2日間、川西公民館を会場にお知らせをしている。川西地区住民の皆様一人ひとりが作り上げる住民参加の文化祭として開催し、利用者団体の展示や舞台発表はもとより地域住民の方の作品を多く展示し、成果を発表していただく場である。なかでも、3年前から郷土芸能文化を川西地域の皆様に知っていただく機会として、神楽や獅子舞、太鼓を取組んでいる。また、この期間中にイの音楽交流会「ひびけ川西の空に」を開催し、川西地域の保育園、小・中学校の音楽クラブ等の児童生徒と地域の音楽グループの人々が、音楽発表を通じた交流活動を行う場でもある。その他、(3)「自然と環境が守られるふるさと川西づくり」の「ア 里山を中心とした地域づくり講座」の開催と地域自主グループの活動への支援、「ウ 花いっぱい川西の里づくり」、(4)「心も体もさわやか・すこやかなふるさと川西づくり」の「イ 川西歩こう会の活動の充実」等、今後も公民館活動を積極的に取組んでいきたいと考えている。

全委員 了承

閉会

教育委員会会議規則第 2 1 条の規定により署名する。
